

【各委員からの意見への対応案】

発言者	意見の内容	対応案
山田市長	●中間検証いわゆる計画対象期間の中間検証や進行管理きちんとやるべき。	・大綱策定後の課題とさせていただきます。
山田市長	●「人権」というキーワードが重要	・3の「繋がる」「創る」の中に人権について追記しました。
山田市長	●情報発信、情報共有、意見集約、情報に関する取り扱いは明確にしておくべき。	・2の図中に「伝わる伝え方」を記載しました。
山田市長	●危機管理、リスクマネジメント、ガバナンス、内部統制含めた、災害も含めた危機管理、これを今後の大綱の中に加えた方がいい	・2の「市・教育委員会」の中に左記事項について記載しました。
滝教育長	●家庭、地域の部分、もっともっと巻き込んでいく必要がある。 「市民」に、この輪に入っていて、それぞれのお立場で、もっと犬山の教育に関わっていただける仕掛けを、作っていく必要がある。	・2の図を改め、市民という位置づけを設けるとともに、市民については、文章の語尾を市民に呼び掛ける形に変更しました。
奥村委員	●「学ぶ」という部分に「誰一人として取り残さない」と「繋がる」が非常に重要になってくる。	・学校においては「誰一人として取り残さない」という考えは重要だと考えます。一方で、大人については希望者の希望を整えることが重要だと考えます。 なお、学校においては2の図において「個」に応じた・・・」を追記しており、この言葉が「誰一人として取り残さない」につながるものと考えます。
奥村委員	●「創る」が大事。市民を創るという意味で、非常にコアとなる部分。そのコアとなる一番はコミュニティ。	・コミュニティについては、2の図にある「地域」がそれにあたりと考えています。「コミュニティ」という単語は、犬山市内においては特定の意味を持つので、使用を控えました。
奥村委員	●ICTの取組みをふやしてほしい	・ICTに関する具体的な取組みは、大綱で示す方向性を実施するための手段だと考え、大綱での記載を見送りました。

発言者	意見の内容	対応案
奥村委員	●子供人権宣言(条例)等が出来ると良い	・3の「繋がる」「創る」の中に人権に関する記載を加えました。
奥村委員	●大綱の6年が妥当かどうか。	・次の大綱の期間は、5年間にしたいと考えています。
田中委員	●基本理念及び全体の表現に関して 主体(市民)を支える、主体の環境を整備するという姿勢を示すよう文章表現を工夫する必要がある。 促進する、励ます、支えるという趣旨や表現を込めていただきたい。	・2の図の中で、「環境の提供」という言葉で表現しました。促進、励ます、支えるといったニュアンスは矢印で表現しています。
田中委員	●大綱作成にあたっての目的の確認と意識化 市民が人間らしく生きることが出来る街や社会を自分達を作り出すのだという公務労働の誇りや自負を、職員が感じたり確認するものとして策定されると良いのではないか。	・大綱策定後の職員への周知面で工夫します。
田中委員	●重点的な観点 (1)権利、人権としての教育 近年、不登校対策や制服・校則見直しなどを進めているところで、施策の継続性という観点からも、権利・人権がキーワードとして、これらを重点的に進める期間としてはどうか。 また、「教育のまち」の名に相応しい子どもの権利条例策定に向けた活動も検討して良いのではないか。	・3の「繋がる」「創る」の中に人権に関する記載を加えました。
田中委員	●重点的な観点 (2)持続可能な教育環境の創出 大綱の策定と同時に、「やるべきこと」を確認するとともに、「できること」と「できないこと」を明確にし、「やるべきだができない」事象があれば、その原因は現場の改善で解消できるのか、行政の条件整備で解消できるのか、国の法制レベルに問題があるのか、といった総括をする機会としていただきたい。	・大綱の中ではなく、個別具体の施策、事業レベルでの確認事項だと考えます。

発言者	意見の内容	対応案
小倉委員	●まち全体があたたかいところであつたらいい。	・3の「繋がる」【地域における交流の促進】に記載した「お互いの価値や多様性を認め合い、人権を尊重する心を育」むことが、そのまちに住む人のあたたかさにつながると考えます。
小倉委員	●お城、お祭り等、本物があることが犬山のいいところ。そういうものがあることを売りにしていきたい。	・1にある「個性あふれる地域資源を活かす」に、ご意見の考え方が反映されているものと考えます。
小倉委員	●コミュニティをどう活かしていくのかということも大事。	・コミュニティについては、2の図の中にある「地域」に含まれていると考えています。
小倉委員	●主体は市民であることを書きこんでいきたい（市民が担い手）。	・2の図について、これまで「家庭」「地域」となっていたものを整理し、「市民」の中に「家庭」「地域」が包含された表現へ変更するとともに、文章の語尾を市民に呼び掛ける形に変更しました。
小倉委員	●人のことを思いやれる気持ちを大事にできる人を育てていきたい。	・3の「繋がる」の【郷土愛と豊かな心の醸成】に含まれていると考えます。
堀委員	●「愛情の量を増やし質を高めます」という言葉が気になる。 （図「家庭」内）	・表現方法を検討します。
堀委員	●乳幼児から大人まで →大人ではなく高齢者(?)という表現の方が。 （図「市・教育委員会」内）	・ご意見のとおり変更しました。
堀委員	●4つの丸のやり方でいいのか。子ども未来園や学校は支えるではないか。	・図を修正しました。
堀委員	●【学びと遊び】→【遊びと学び】 「学ぶ」内	・タイトルが「学び」となっていることから、「学び」が前の方が良いと考えます。
堀委員	●「繋がる」をもう少し深めるといい。	・他の意見を踏まえ、「人権」に関する記載を追加しました。また、2の図中、市民に関する記述の語尾を「～しましょう」と呼びかける形に変更しました。

発言者	意見の内容	対応案
渡邊委員	<p>●項目に追記、修正 『個』に応じた親身な指導を充実し、多様な学びの機会をつくる！</p> <p>犬山で培われた伝統・産業・文化を深く知り、「我がまち いぬやま」を誇りに思う心を育てる。</p>	<p>・学校現場のことと捉え、2の学校の中に記載することにしました。</p> <p>現在の大綱「個性あふれる地域資源を活かす」や「暮らしたい」「訪れたいまちへ！」に意見の内容が含有されていると考えます。</p>
渡邊委員	<p>●（学ぶ） 「確かな学力を身につける」 自分で課題を発見し、主体的・対話的に探究し、学びを深め、問題を解決する資質や能力を身につける。</p>	<p>・「自分で・・・」について、これが基本理念＝「感性豊かなひとづくり」だと考えます。</p>
渡邊委員	<p>●（創る） 「豊かな心を育む」 自己肯定感を高め、自分・他者の命や自然を大切に作る心や他を思いやる心を持つ。感性が豊かな子どもを創る。</p>	<p>・ご意見の一部を踏まえ変更しました。（自然については、自然以外のもも大切にして欲しいと考え、反映していません。）</p>
木澤委員	<p>●「自ら学び続ける」 →どうすれば！例えば脳科学から実現可能な訳、意欲につながるような文言で綴る</p>	<p>・3は、「生涯にわたって自ら学び続ける感性豊かなひとづくり」を実現するため、3つの視点を重視しながら取組みを進めることとしています。</p>
木澤委員	<p>●学ぶ コロナ禍を体験し、学び方の多種多様を再検討することが究極ではと考えます。必然的なこれからのICTと同時に今までの読み、書きとの連動はどのように変化するか。</p>	<p>・2の図の「学校」内に「個に応じた・・・」を追記しました。 ICTについては、「学び」の手段、読み、書き等については、学びの内容と考え、方向性を示す大綱での記載は見送りました。</p>
木澤委員	<p>●繋がる ＝多文化共生が云われ現在どれほどの進展があるでしょうか？ここしかない！の悲痛さから繋がる人、場所など増す必要性についてはどうなのか。</p>	<p>・ここでは犬山市の教育にかかる方向性を記載すべきだと考えており、他の文章との整合性を保つためにも個別具体的な内容は避けたいと考えています。</p>
木澤委員	<p>●ニーズの一斉調査をした上で、それぞれの思いにつなげることが必要。その後、「市・教育委員会」市民の思い、希望をどう連動できるかに結ぶことで活力ある自主性を引き出し紡ぐとなるように。</p>	<p>・オンラインアンケートを実施しました。結果は別紙のとおりです。</p>

発言者	意見の内容	対応案
木澤委員	<p>●全体的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民の考え、想いが ずっと住んでいたい愛着に繋がる大綱にできればと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上
木澤委員	<p>●主体は市民だということ、市民の関心がどこにあるのかをもっと掘り下げるといい。いろいろな個性の持ち主がここに書かれているのか。その辺が入っているとより身近に考えていただけなのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2の図について、これまで「家庭」「地域」となっていたものを整理し、「市民」の中に「家庭」「地域」が包含された表現へ変更するとともに、文章の語尾を市民に呼び掛ける形に変更しました。